

バックアップアプリケーション datasaver のご紹介



datasaverの特長

**BCP/BCM、導入・運用コスト削減に役立つ
CDP方式のリアルタイムバックアップアプライアンス**



•CDP方式だから

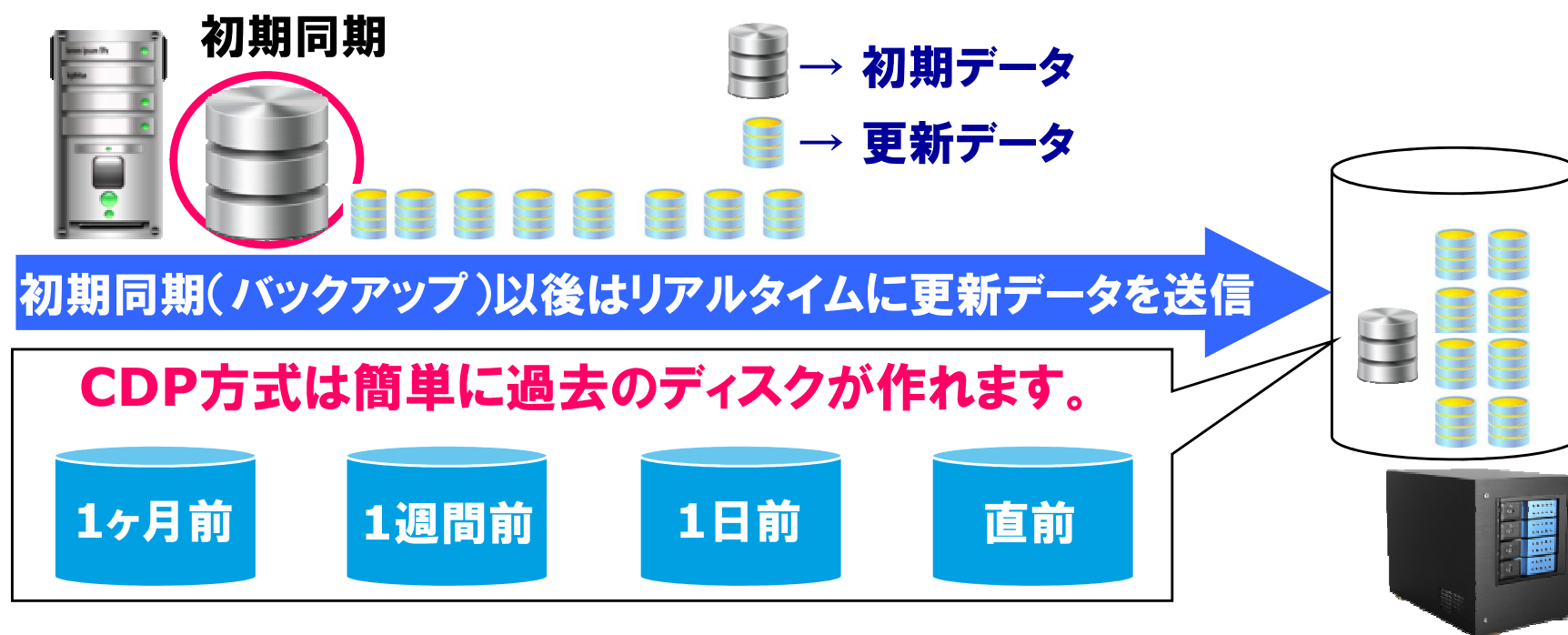
- 直近状態への復元ができる
- サーバとの通信量が少なく済む
- 通信負荷が少ないから、遠隔バックアップにも役立つ

•アプライアンスだから

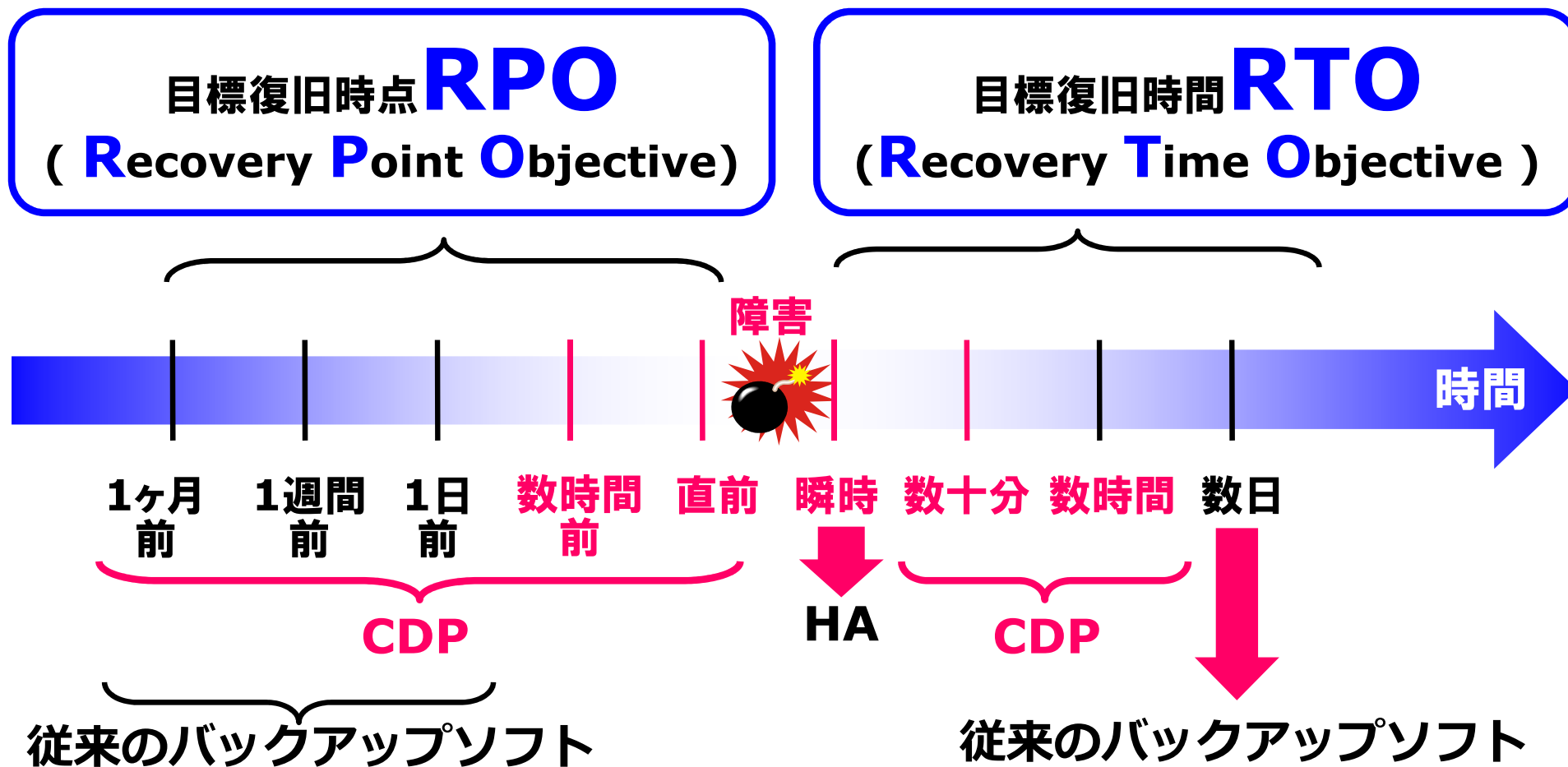
- 数分で設置して使い始められる
- ハードウェアとソフトウェアの相性を気にせず簡単導入
- トラブル時の原因切り分けもおまかせください

バックアップ方式（CDP方式）

CDP(Continuous Data Protection)方式とは、日々のバックアップ機能に加え、災害/障害時に直前状態まで復旧出来ます。



RPO・RTO面から見たCDPの位置づけ



CDP方式は、中堅、中小企業のBCP対策として最適なシステムです。

運用開始までの3STEP

① **datasaver**を
設置



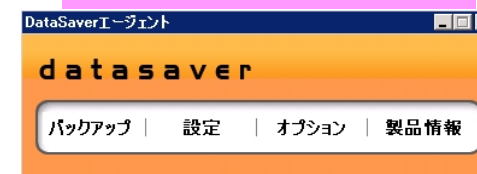
② **datasaver**に
バックアップ対象
マシンを登録



③ 対象マシンに
datasaver
エージェントをイ
ンストール



**バックアップ
開始!!**



**一度設定すればあとは自動運用、
指定した間隔でリカバリポイントが作成されます。
設定はWEBコンソールから簡単に変更!**

リカバリポイントから簡単リストア

datasaver

リカバリポイント | 設定 | ログアウト

エージェント名: appserver-a

エージェント設定

連続保護: 完了 (02 Aug 2014 12:04)
最終同期: 稼働 (18 Nov 2014 15:49)
サイズ: 20.07 GiB
リカバリポイント: 30 (リカバリポイントの最大数: 30)
現在のスケジュール: 毎日: 1

18 Nov 2014 15:49

18 Nov 2014 11:00 AM (54.50 MiB)

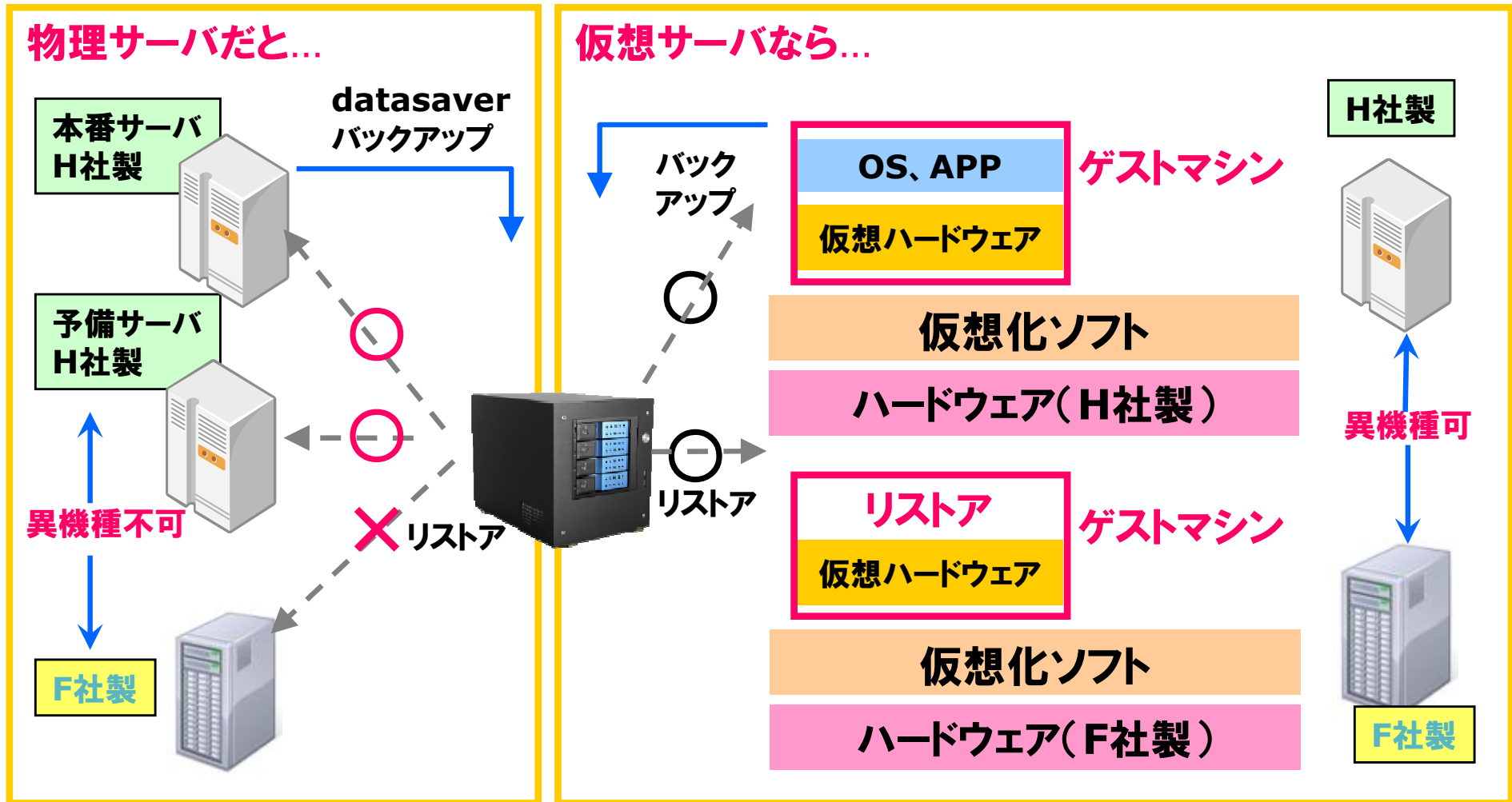
17 Nov 2014 11:00 AM (53.15 MiB)

16 Nov 2014 11:00 AM (188.18 MiB)

WEBコンソールから
過去のリカバリポイントを指定し、
ファイルやフォルダ単位でリカバリ

システム全体のリカバリには、
リカバリCDでマシンを起動し、
IPアドレスとリカバリポイントを指定

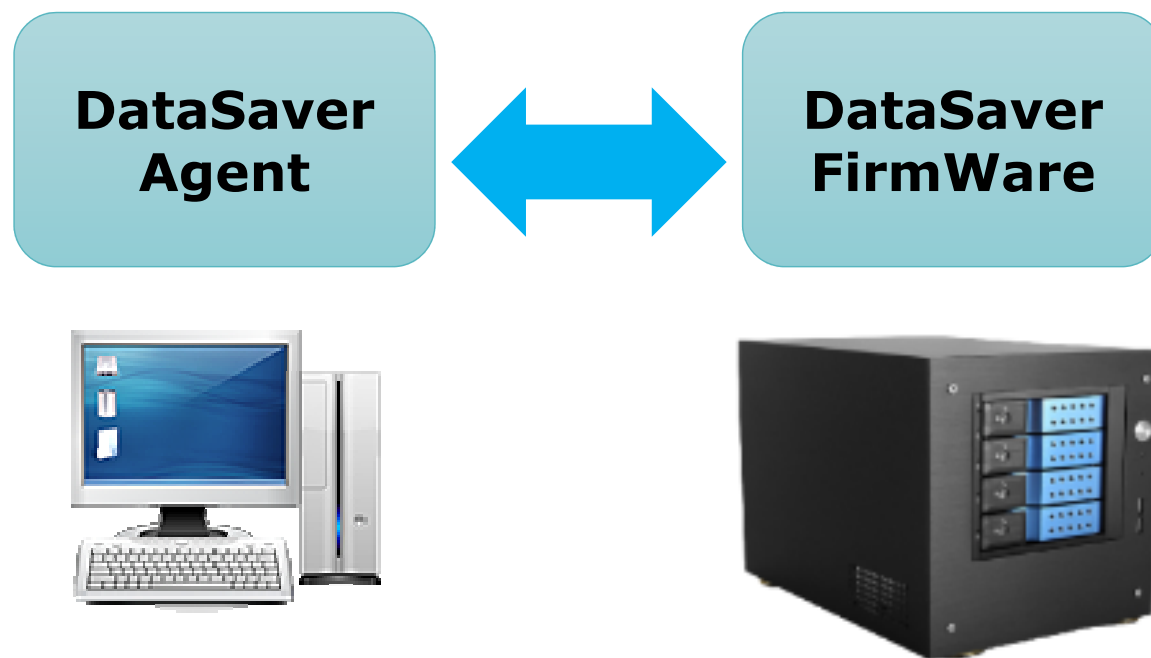
BCM(事業継続管理)も実践できる



仮想サーバ環境を利用すると、ハードウェア依存しないリストアが可能になる上に、本番サーバ稼働中でもリストア検証ができる。(BCMが可能)

Agent と FirmWare

datasaverの特徴として、
バックアップを実行するAgentと
リカバリポイントを作成するFirmwareで構成されます。

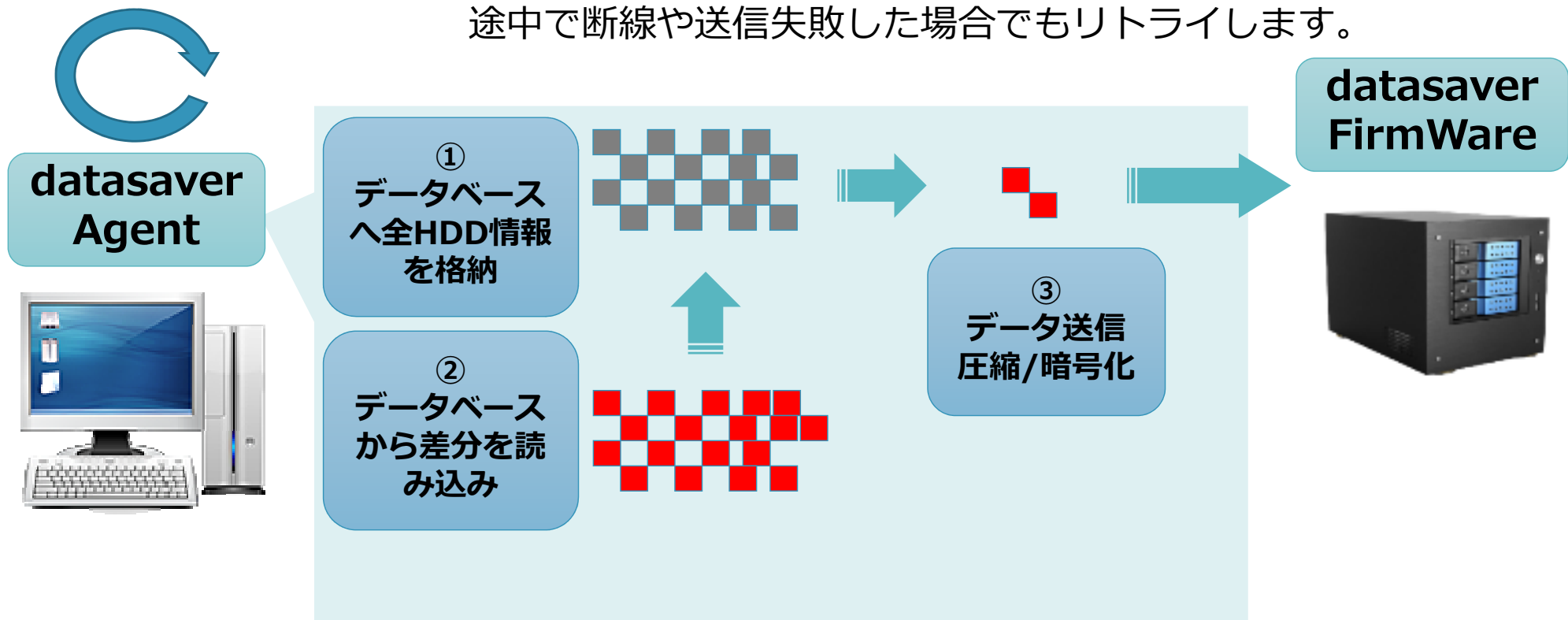


**双方が常時に連動
通信断があった場合もリトライし整合性抜群**

datasaverのAgentのしくみ

バックアップ取得時のAgentSoftのしくみ

- ① VSS機能を利用した独自技術により最初にフルバックアップをとり全てのHDDのブロック情報をデータベースへ格納する。
- ② VSS機能を利用した独自技術により差分をブロック単位で読み込み検出
- ③ 差分ブロックデータをサーバーへ送信。
途中で断線や送信失敗した場合でもリトライします。



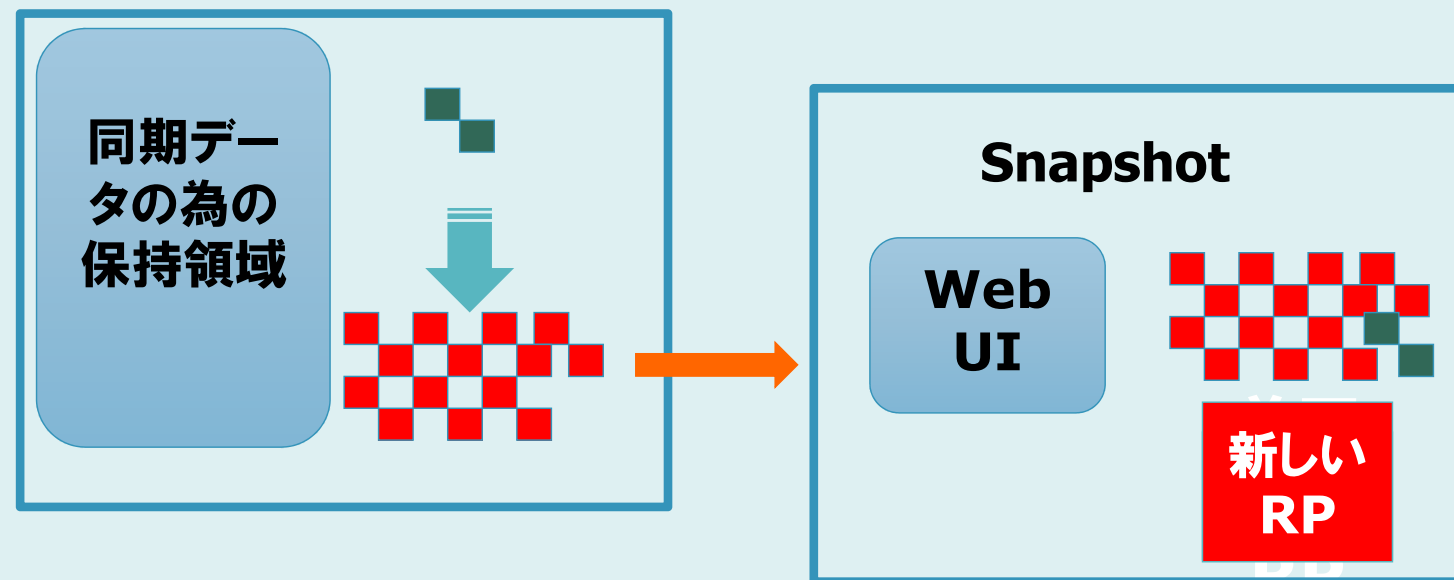
datasaverのFirmwareのしくみ

バックアップ取得時の
FirmWare のしくみ

完了した同期データの為の保持領域

ユーザー（WEB UIにて）へファイル/フォルダ構造を提示し、
ファイル/フォルダのリカバリ機能を提供し、
スケジュールスナップショット機能
（手動スナップショット機能もあり）によりリカバリポイントを作成していきます。

datasaver
FirmWare



この一連テクノロジーはTrue CDPと Near CDPの間ともいえる

本当にバックアップされているのかの確認は？

①バックアップ状態をアイコン で見える化



②WEBGUIから一元管理で状況確認



③多様なEメールアラートで管理者へお知らせ

各種エラー通知 (HDD障害・電源障害・バックアップエラー他)
週間レポート

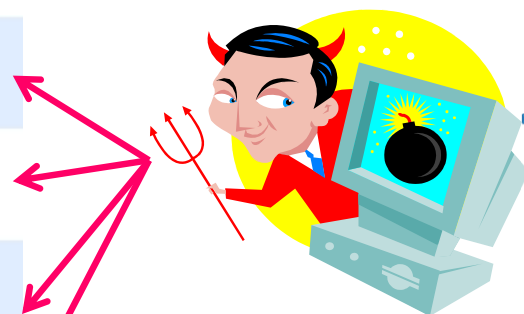
安心!!

お客様での活用例

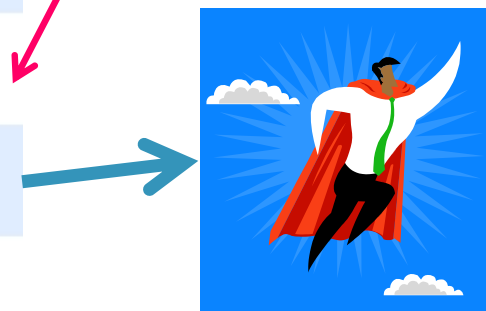
《中小企業の社長様からの人気用途》

～悪質な退職社員のデータ削除等のデータ復活～

22 Aug 2013 05:15 PM (2.19 GiB)
22 Aug 2013 04:37 AM (1.43 GiB)
21 Aug 2013 04:37 AM (4.00 KiB)
20 Aug 2013 04:37 AM (9.12 GiB)
19 Aug 2013 04:37 AM (4.00 KiB)
18 Aug 2013 04:37 AM (4.00 KiB)
17 Aug 2013 04:37 AM (4.00 KiB)
16 Aug 2013 04:37 AM (4.00 KiB)
15 Aug 2013 04:37 AM (25.71 GiB)



すでに削除されてしまった時の
復旧ポイント



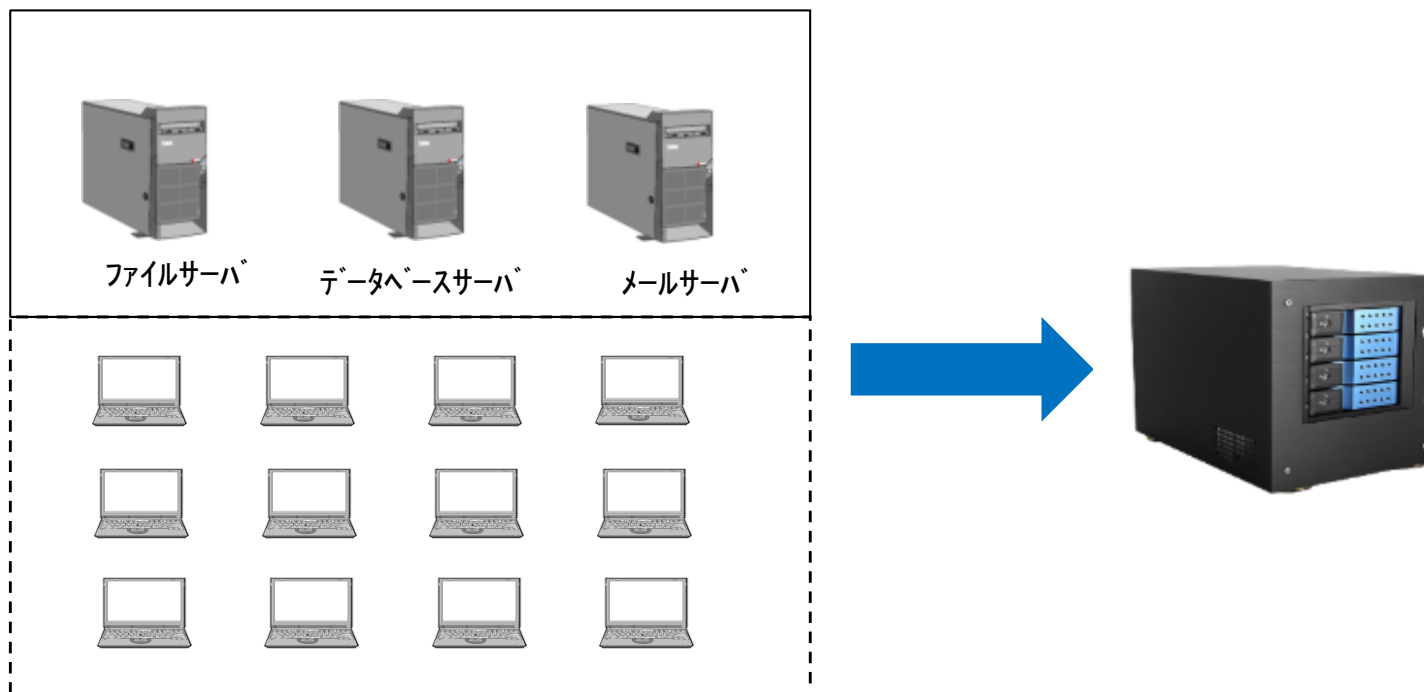
datasaverは
「世代管理」をしています。
削除される前のPCデータを
戻すことが可能。

「バックアップ」+「セキュリティ」

バックアップだけではなく、「いつでも元に戻せる」というセキュリティの観点で導入!!

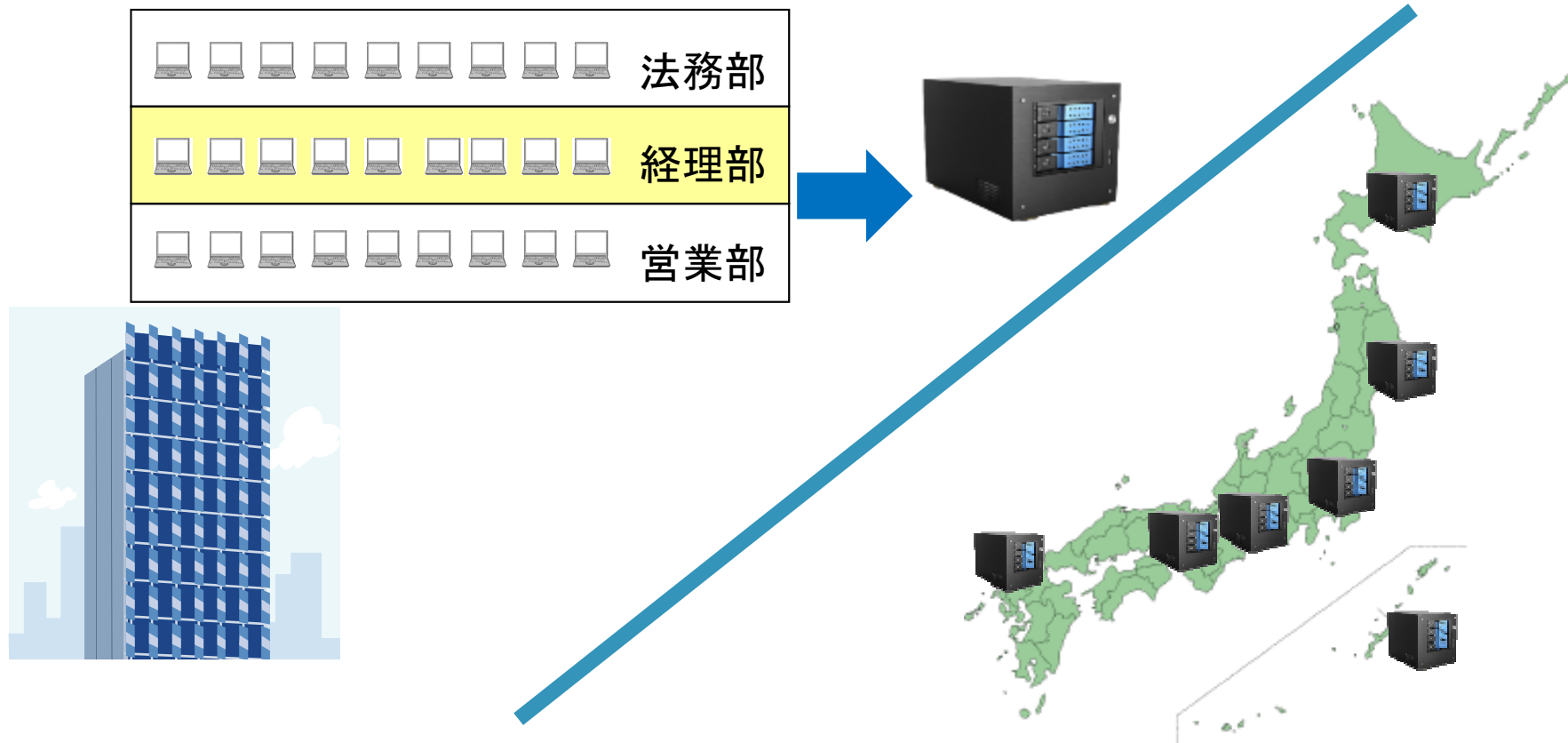
≪使用例①

～サーバもPCもこの1台で～≫



サーバーをメインに、空いている領域で業務社員のクライアントPC

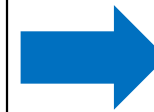
◀使用例② ～部署単位・拠点単位～▶



・ 全員のクライアントPC対象となると予算含め大プロジェクトになってしまいます。
大プロジェクトとしてではなく、社内でも特に重要な部署から体制を整えていきます。

⇒経理部、役員、各拠点

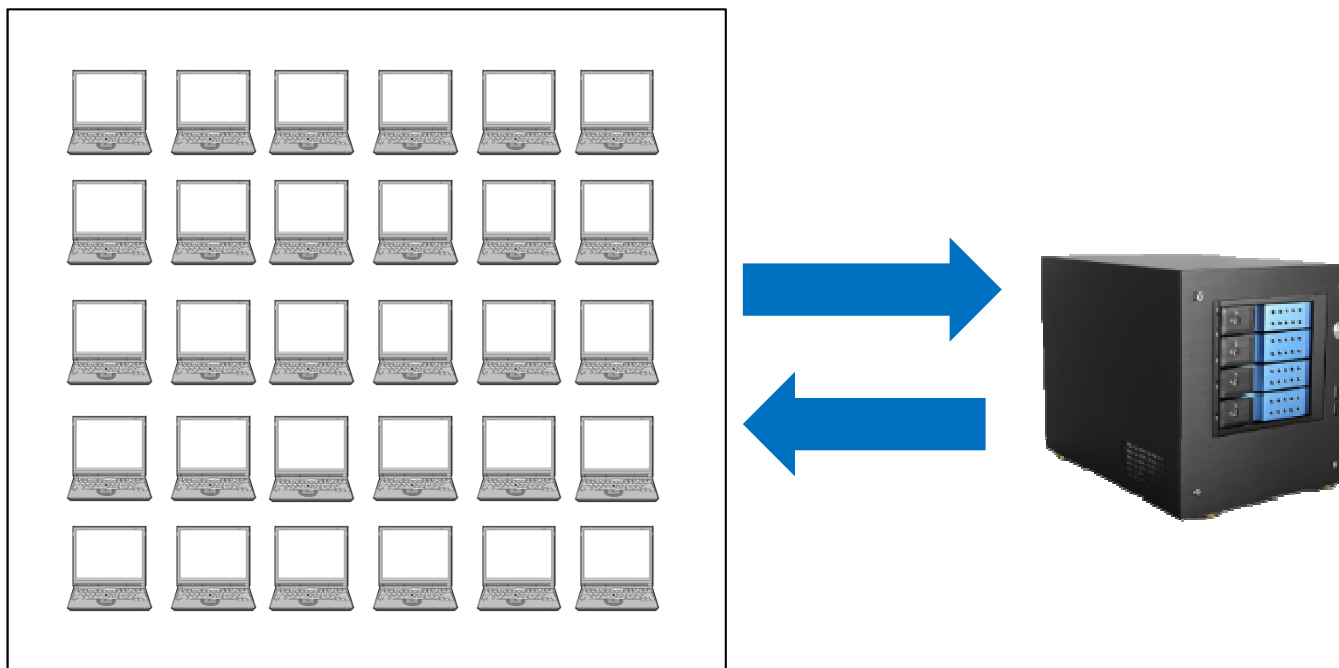
≪使用例③ ～全社員雛型作成～≫



ライセンスフリーだからこそお得な使用例

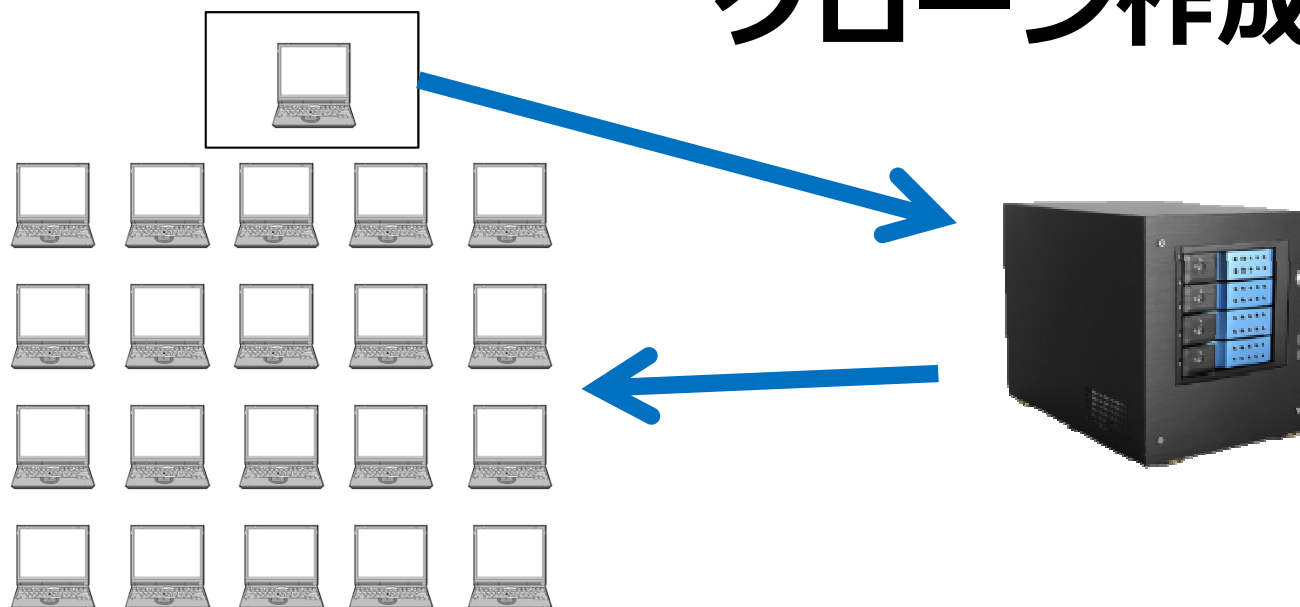
全社員のPCまたは機種ごとに雛型のみを保持しておき、システムの再インストール設定作業の削減。最新データはサーバからという考え。

◀◀使用例④ ～クリーニング作業～▶▶



学校、ホテル、漫画喫茶のように不特定多数の人が使うPCは毎回同じ状態に戻す必要があります。そのようなPCの雛形のフルバックアップ^oをしておき定期的にクリーニング作業を行います。

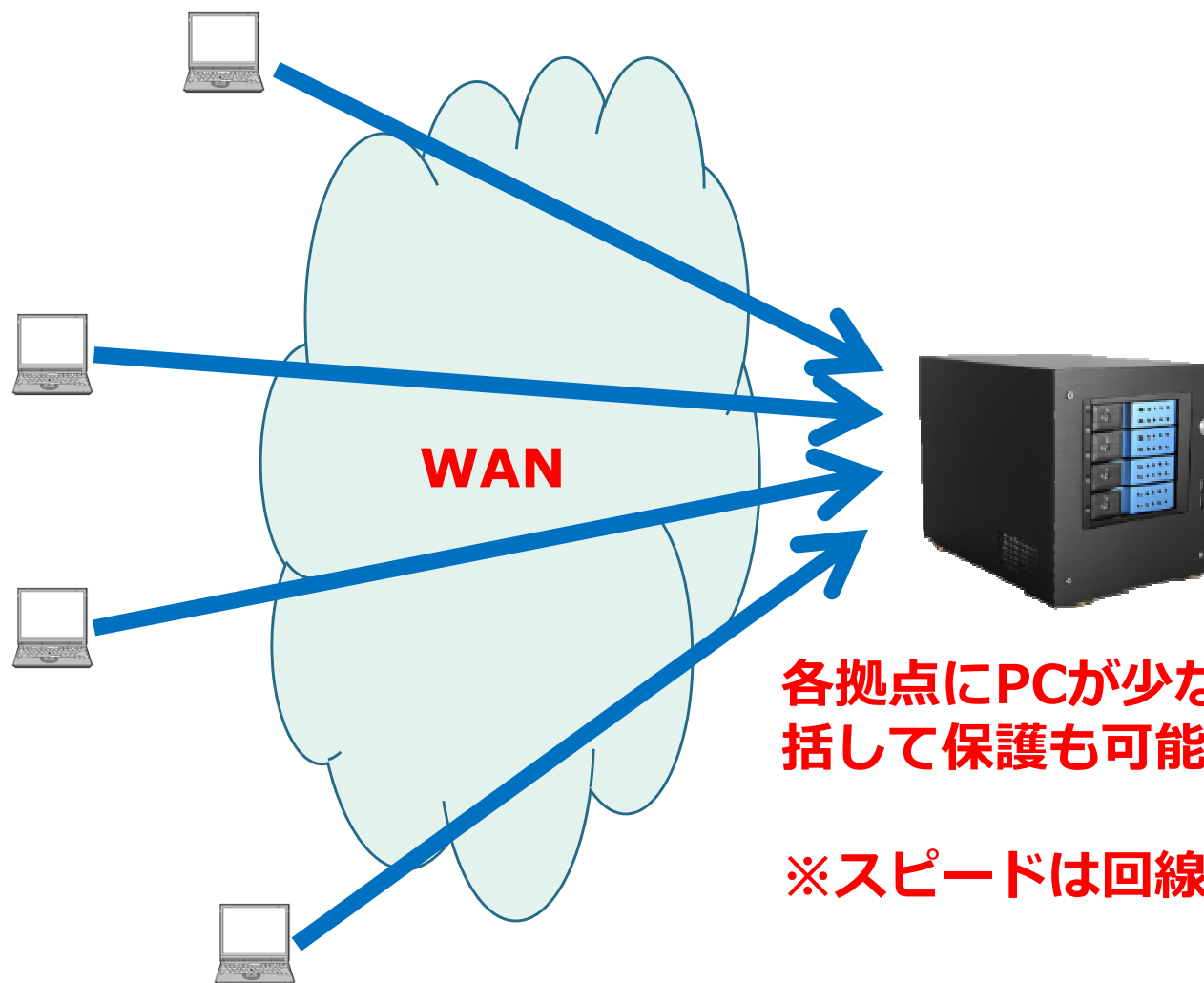
≪使用例⑤ ≫ ～キットティング作業 クローン作成～≫



同じメーカー機種のPCをまとめて購入した際に、1台目のPCだけ設定を行い、残りのPCはdatasaverを使ってイメージコピーが可能となります。

(異なるドライバー類のマザーボード等の機種へは不可です。)
(ライセンスは、ボリュームライセンスを購入して頂くか、お客様にて振り分けていただく必要がございます)

◀◀使用例⑥～WAN越しのバックアップ～▶▶

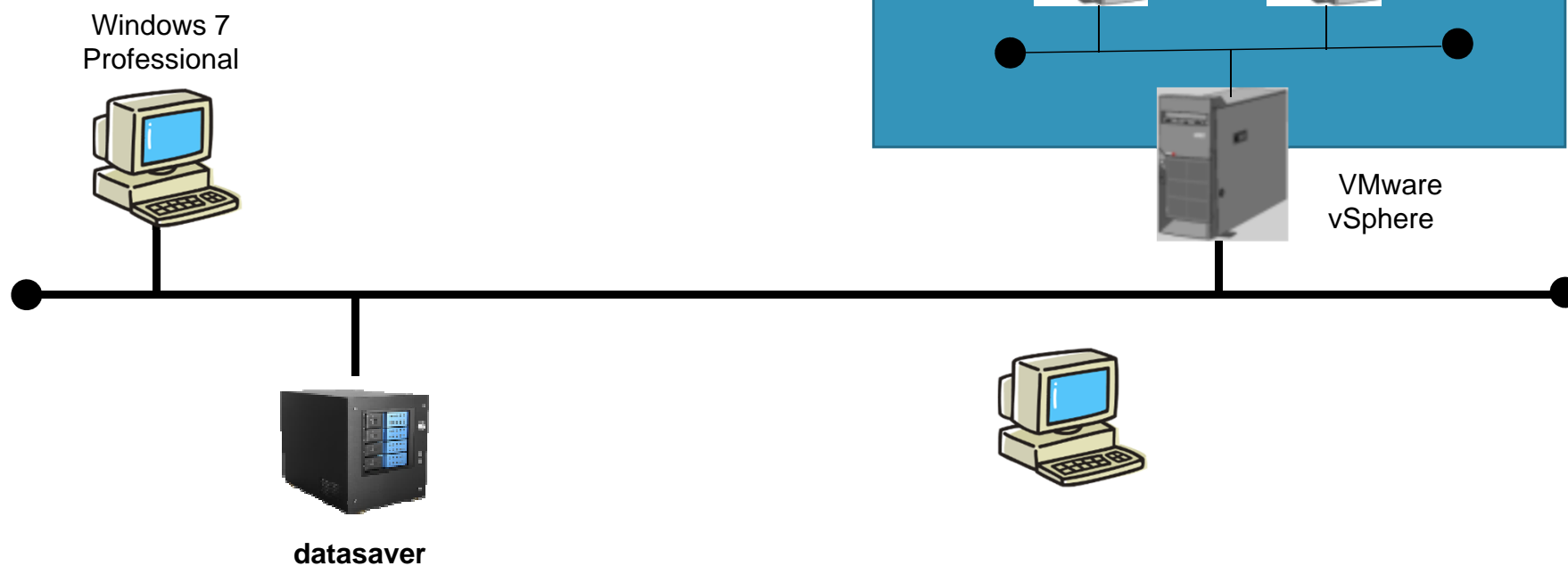


各拠点にPCが少ない場合に本社で一括して保護も可能。

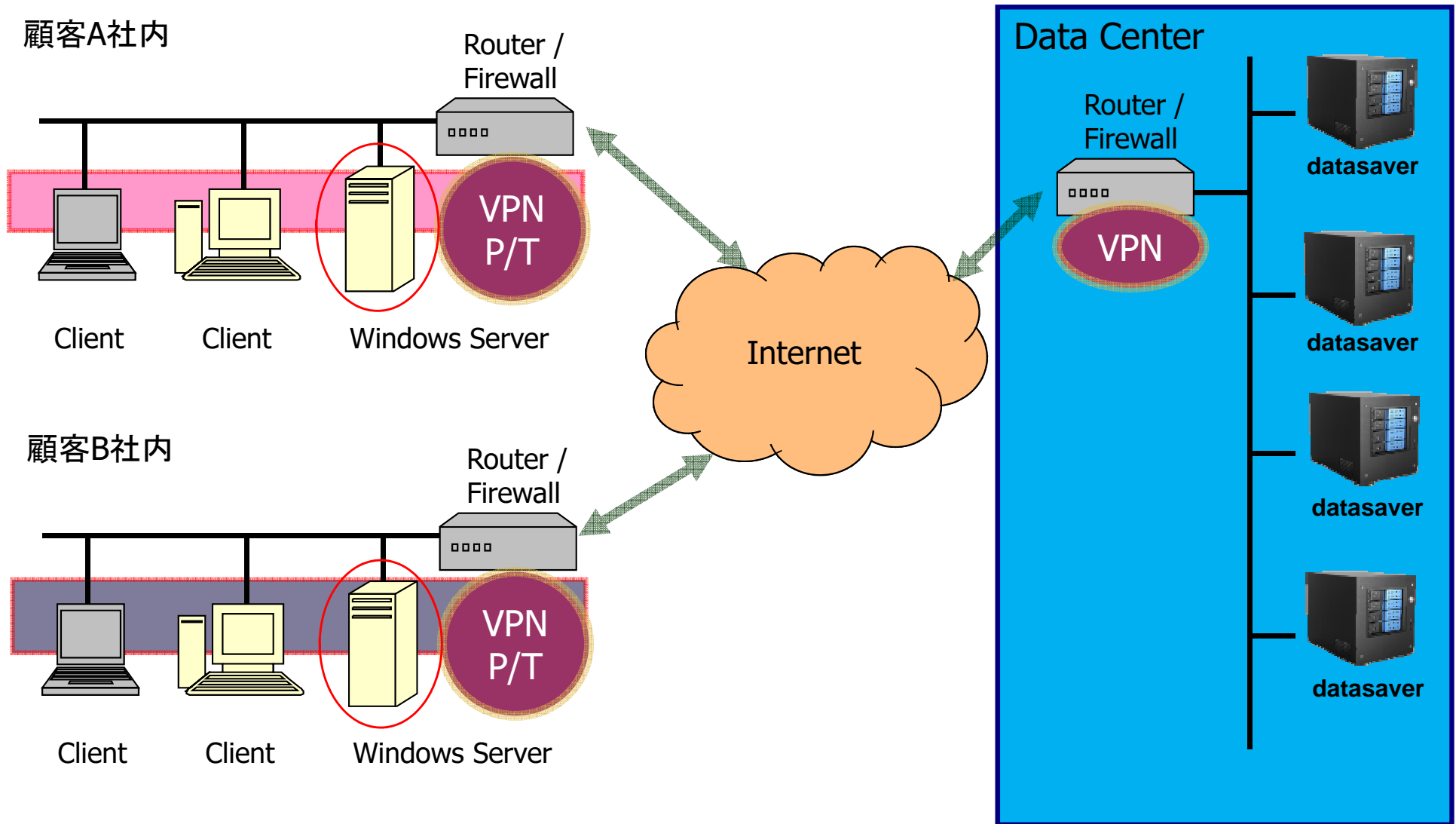
※スピードは回線速度に比例します。

◀◀ 使用例⑦ ～仮想環境のゲストOS～ ▶▶

仮想サーバが物理的に故障した際、
新しいハードウェアを購入する時に
メーカーや機種が異なっても、
ゲストOSは復旧できます。



《使用例⑧～データ保管サービスとして～》



DR(Disaster Recovery)



**災害対策のために重要データを遠隔地にバックアップ
したいけれど、本格的なDRシステムは高価。
高速でセキュアな回線はさらに高価。**



**システムや回線が高価なことに加え、
遠隔地へのデータ送信は、スループット低下の影響を大きく受けます。
東京-北海道では、100Mbps回線が21Mbpsまで減衰し、
意図した時間にバックアップが終わらないことも。**

***datasaver*は、データの変更された箇所のみを
常時少量ずつ、圧縮&暗号化して送信するため、
遠隔地へのバックアップも負担が少なく安全です!!**

グループウェアのバックアップ



夜中にグループウェアのデータをまとめてバックアップしているけど、時間がかかりすぎる...



グループウェアのメインはメール。
メールは1通平均30KB程度ですが、
サイズではなく1度に送るファイル数に
影響されるバックアップツールでは、
30KBの積み重ねでも相当な時間がかかります。

***datasaver*は、定期的にまとめなくとも
リアルタイムで変更箇所のみ記録。
時間もファイルサイズもファイルの数も心配無用!!**

CADデータのバックアップ



設計作業は以前に戻ってやり直すことが多いし、
試作時点や量産化前のCADデータを
何世代分も保管しなくてはならず大変。



従来のバックアップツールでは、
「頻繁に変更される大きいファイル」
「各時点で保存しておかなければいけないファイル」は
即、ディスク容量圧迫につながります。

*datasaver*は、データを圧縮してバックアップ。
特定時点でリカバリポイントをロックし消去を防ぎます。
操作が簡単だから、設計者に権限を与えて自ら
バックアップ/リカバリをしてもらうことも可能!!

データセンターへの委託



バックアップをデータセンターに委託しているから、作業費もかかるし、リカバリもタイムリーにできない。



データセンターにサーバをハウジングしていると、こちらからは状況がわからず、作業は依頼ベースで、不安な点が多くあります。

***datasaver*は、いったんIDCに置いて設定してしまえばあとは人手を介さず自動バックアップ。
WEBコンソールから状況を監視しつつ、
リカバリポイント作成もリストアも遠隔操作が可能!!**